

* 保護者・スカウトに関する問題点（疑問点）

新藤 信夫

- 1、スカウト運動に対する理解不足（募集時の保護者の理解と期待度のギャップ）
- 2、スカウト活動に対する指導・活動方針が保護者に理解されていない。
- 3、スカウト活動目的が保護者に十分説明されていない・・・保護者のニーズが未達
- 4、指導者の資質に対する疑問・指導者間のトラブル
- 5、スカウト同士の仲間関係のトラブル。
- 6、スカウトと指導者との関係・・・特に集会などを欠席した時のフォローができてない
- 7、プログラムに対する不満（マンネリだ、つまらない、レベルが低下など）

* 対応策の実施

- 1、募集時、入団時の説明会の充実。
 - ・スカウト展、体験入隊の工夫と実施（入団して頂くための説明）
 - ・入隊した後に、自団のスカウト活動方針についての説明会を行う。（経費のことも）
- 2、保護者会を随時開催して、団・隊の活動方針・実績、予算・決算などの報告会を行う。
 - ・年間活動計画表（プログラム）に基づき、団の方針を説明して保護者の協力を頂く。
 - ・月間プログラムを前月には提示して、隊・団行事への団委員・保護者の協力を頂く。
 - ・保護者を巻き込むイベントの実施（スカウト活動に関心を持っていただく）
 - ・保護者会の開催頻度を増やし「ニーズや期待度、満足度を把握」して活動へ反映。
 - ・スカウトの成長状況や活動状況を適宜保護者に報告する。
 - ・熱心な保護者を見出して、講習会や各種研修に参加頂き指導者養成へ結び付ける。
 - ・保護者がなぜ子供をスカウト活動に入れたのか確認しておく。
- 3、指導者に団としての研修計画を策定して、研修所・実習所、定形外訓練に参加させる。
- 4、28-29年度を中心に、セーフフロムハームを進め、トラブルを未然に防ぐ。

スカウト登録指導者にはセーフフロムハームの講習を受けてから加盟登録を行う。
- 5、スカウトが集会を欠席した時は、事前に分かっている場合でも集会のフォローをする。

部活の選手の場合など、班員にも理解してもらい、次回出席がしづらくなならない様に。
スカウトの欠席が長期になるときは保護者を交えて、中途退団にならないよう話し合う。
- 6、スカウトと指導者、指導者同士、指導者と保護者のコミュニケーションは最重要である。
- 7、プログラムに対する研究は、指導者の大きな課題である、スカウトのニーズの把握。

ラウンドテーブルや各種研修で常に意識をもって研究していく。

*** 入団したスカウトには、「礼儀（挨拶）と規律（基本動作とスマートネス）と
公共のマナーを確実に指導する。**
(保護者にボーイスカウトに入ったことの変化点を気づかせる)

より良い人間関係を築くための原理・原則

原則 I.

相手の「状況」がどのようなものであるかを知ろうとすることに意識を向ける

原則 II.

相手が何をどのように達成したいのかという「目的」をわかろうとすることに意識を向ける

基本原理

相手がより良い選択をするための援助をし、結果として、相手と共により良くなること

原則 III.

相手との会話の中で、常に「合意」を積み重ねて行こうとする意識を持つ

原則 IV.

相手との会話を、常により良い方向に「コントロール」しようとする意識を持つ

1. コミュニケーション・スキルとは

より良い人間関係を築く上で、このコミュニケーション・スキルを体系的に学ぶことは、大変重要です。なぜなら、あなたと相手とを結ぶ唯一の絆がコミュニケーションだからです。

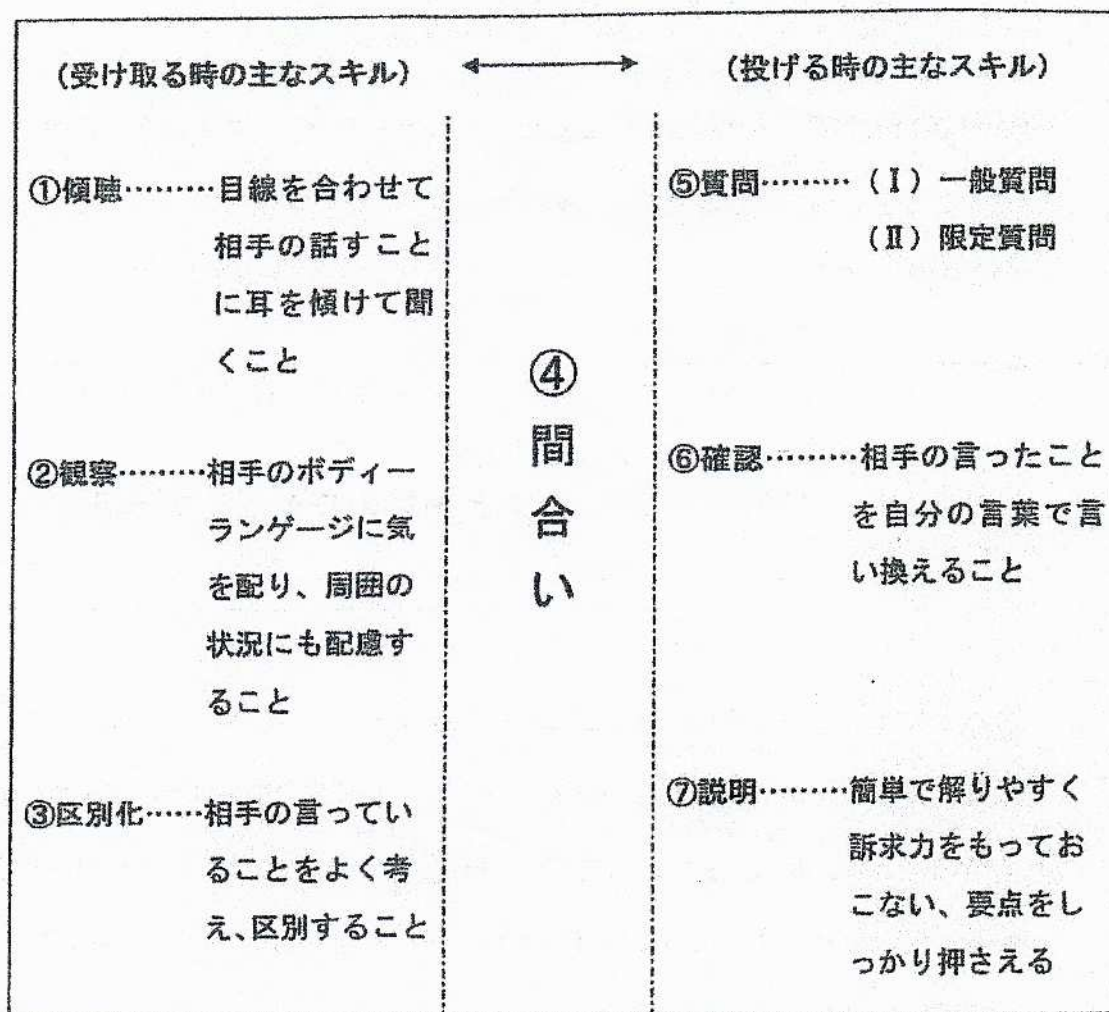
コミュニケーションとは
言葉と感情のキャッチボール

誰もが知っているように、コミュニケーションというものは、一方通行であるよりは双方通行の方が効果的なものとなります。ですから、野球のキャッチボールをする時のように、ボールを投げる時には、相手の受け取れる状態かどうかを見極めてから、受け取りやすいように投げ、また、受け取ったボールは少し間を置いて（一呼吸置いて）投げ、受け取る時も、すばやく取りやすい位置にグラブを向けて受け取ります。

ここでは、コミュニケーション・スキルを「受け取る時の主なスキル」と「投げる時の主なスキル」そしてその間の「間合い」というスキルに分解して考えて行きます。



＜コミュニケーションにおけるキャッチボール＞



これらのスキルの一つひとつは、相互に関連し合っているものと考えられます。

例えば「説明」というスキルは「傾聴」と「観察」なしには、あまり効果的とは言えません。これらの点からも、優れたコミュニケーションとは、上の7つのコミュニケーション・スキルを駆使した時になされるようです。